

西の里 令和3年 11月発行 特別号

発行者 北広島市立西の里小学校
校長 相澤 是哉

【本年度の学校課題と重点】
「自立・共生する生き方」の基礎を身につけた児童の育成
【重点】チャレンジ：自ら進んで考え行動する児童の育成

【小中一貫教育：西の里地区スタンダード】
～3つの「あ」～
挨拶人を大切に・安全命を大切に・後始末物を大切に

令和3年度 西の里小学校 全国学力・学習状況調査 の結果分析

保護者・地域の皆様におかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年5月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果をまとめましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けた改善プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

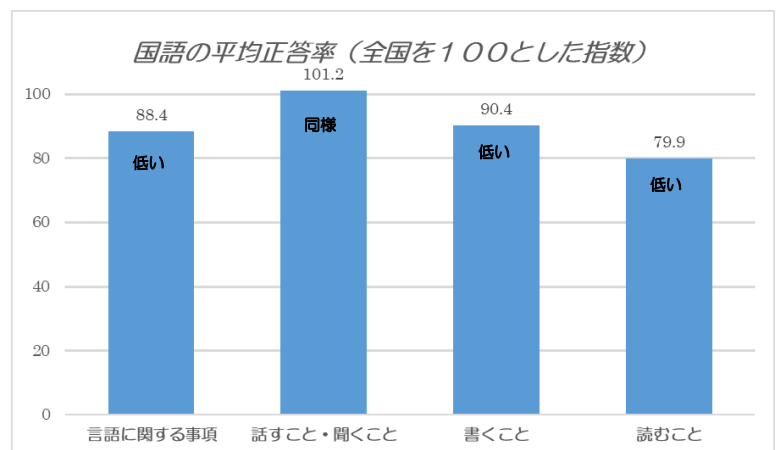
※下記の「同様」「やや低い」「低い」等の文言は、北広島市教育委員会の分類方法に基づいた標記です。

国語 全国の平均正答率と比較して「やや低い」結果でした

①領域別の結果

話すこと・聞くこと

この領域では、全国平均正答率とほぼ同様であり、“目的に応じて話の内容が明確になるようスピーチの構成を考えると”や“目的や意図に応じて資料を使って話すこと”について身につけてきたことが分かります。

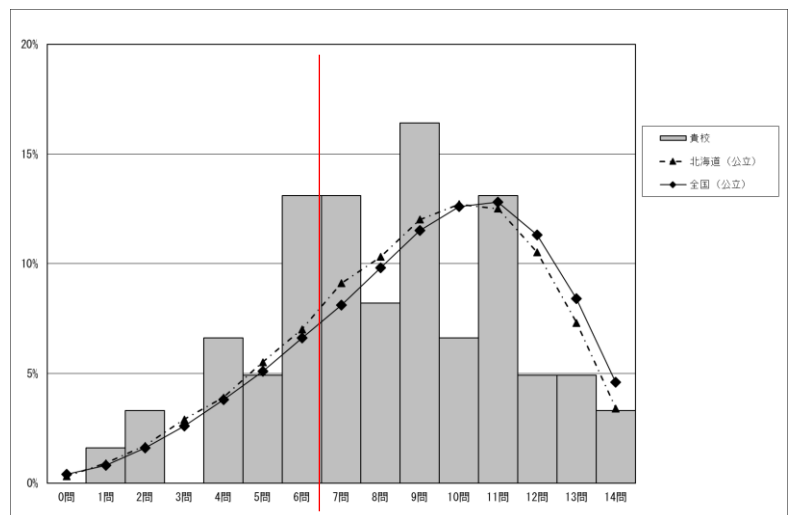


読むこと

この領域は、全国平均正答率と比べて特に低く、“文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること”に課題があることが分かります。目的に応じて必要な情報を見つけることや、中心となる語や文をもとに要約することができるよう、指導の重点として取り組んでいく必要があります。

②正答数の分布

全14問のうち正答数が6問以下の「正答数の少ない層（道教委基準）」の割合は、全国・全道と比べて29.6%と高いため、中間層の割合が増えるような「書くこと・話すこと」を基本とした指導が必要なが分かります。また、中間層から上位層への引き上げについても今後の課題であるといえます。



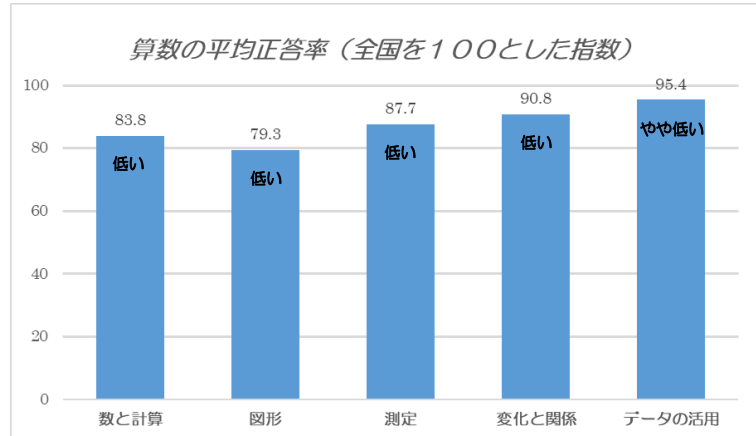
裏面あります→

算数 全国の平均正答率と比較して「やや低い」結果でした

①領域別の結果

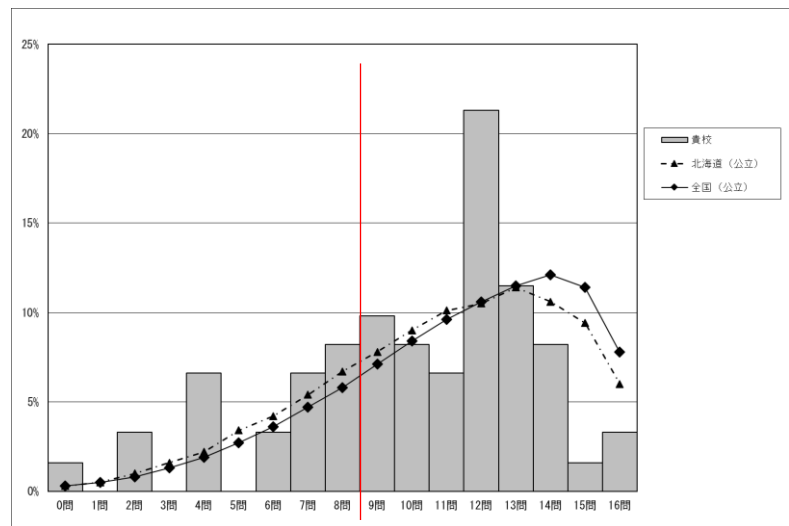
数と計算・図形

数学的活動を通じた「データの活用」については、全国との比較では「やや低い」ものの、ほぼ定着していると考えられます。しかし、算数科の基礎となる「数と計算」や「図形」については特に低い正答率であるため、“数量関係を捉えて正しく立式するとともに、小数を用いた倍の意味の理解”や“面積の求め方について筋道を立てて説明すること”について、個に応じた指導を徹底することが大切であると考えます。



②正答数の分布

算数は、正答数が8問以下の「正答数の少ない層（道教委基準）」の割合は、全国・全道と比べて29.6%であり、非常に高い傾向にあります。また、中間層が多くなるような理想の分布となっていないため、基礎基本の定着を含めた「数と計算」「図形」の指導に力を入れ、改善を図る必要があります。



☆西の里小中学校 学力向上の取組☆

◆小中9年間の発達や学びを支える小中一貫教育の充実を目指して

①日常の授業の充実・改善（各教科）

- ・「わかる・はなす・みにつく」授業を展開した学習過程の工夫
- ・学習の「課題とまとめ」を明確によることによる「振り返りの時間」の充実と、定着を図るための「練習問題に取り組む時間」の確保
- ・学習内容の習熟に応じた、宿題や家庭学習の取組の推進

②授業改善推進チームと校内学力向上担当による授業改善や基礎基本の学習の充実

③習熟度別少人数指導およびT.T指導の充実

- ・児童の実態に応じた丁寧な指導（小グループに分かれた丁寧な指導、T.Tによる指導）

④GIGAスクール構想に係る一人一台端末の活用

- ・端末を効果的に活用した、学習過程の工夫